

第1回 関西エコー／ダーモスコピー講習会 (第86回大阪皮膚科医会例会・学術講演会)

プログラム

参加費

学会員：日本臨床皮膚科医会大阪支部会員の方 8,000円

非会員：日本臨床皮膚科医会大阪支部会員でない方 10,000円

今回は完全WEB開催とさせていただきます。



WEB参加のお申込みはコチラ→

日時：令和3年5月9日(日) 午前10時20分開場

会場：TKPガーデンシティ東梅田 (6階)

大阪府大阪市北区曽根崎2丁目11-16 梅田セントラルビル

【 会場ご案内図 】



共催 日本臨床皮膚科医会大阪支部
(大阪皮膚科医会)

* 日本皮膚科学会専門医の方は、機構認定及び学会認定の後実績を最大4単位習得できます。
詳しくは最終ページ下段を御覧下さい。

* 大阪府医師会認定CC：4、7、9、10、12、15、26、58、72、73、80、81

プログラム

10:20 開場

10:30-12:30 シンポジウム① エコーセッション

座長：坂井 浩志（大阪大学皮膚科）、
小豆澤 宏明（あずきざわ皮ふ科）

- ・「鬱滞性皮膚疾患診療に有用な超音波検査の新知見」
講師：磯ノ上 正明（いそのかみ皮ふ科・血管外科）
- ・「日常の皮膚科診療に役立つ皮膚の超音波検査」
講師：正畠 千夏（奈良県立医科大学皮膚科）

～休憩～

12:45-13:30 ランチョンセミナー

主催：ブリストル・マイヤーズスクライブ株式会社
小野薬品工業株式会社

- 座長：山田 秀和（近畿大学奈良病院）
- ・「メラノーマよもやま話」
講師：清原 隆宏（関西医科大学総合医療センター皮膚科）

～休憩～

15:00-17:00 シンポジウム② ダーモスコピーセッション

座長：坂井 浩志（大阪大学皮膚科）、
清原 隆宏（関西医科大学総合医療センター皮膚科）

- ・「ダーモスコピー最近の進歩」
講師：山田 秀和（近畿大学奈良病院）
- ・「ダーモスコピーによる診断と活用」
講師：清原 英司（大阪大学皮膚科）

閉会の挨拶 山田 秀和（近畿大学奈良病院）

下肢静脈性皮膚疾患の診療に有用な 超音波検査の実際と新知見(case or fake?)

いそのかみ皮フ科・血管外科

磯ノ上 正 明

下肢静脈疾患を理解するための基本はC E A P分類であることは論を待たないだろう。

静脈疾患は実は非常にシンプルであり、C（臨床病期：網目状血管腫から治らない潰瘍まで6段階）E（発生形態：先天性、一次性、二次性）A（異常の解剖学的部位：表在、深部、交通枝）P（病態生理：逆流、閉塞、その両者）の4つの視点から考えると、そのほとんどが理解でき自然と治療法にたどり着くことができる。この中で検査が必要なA、Pの評価には以前は静脈造影が使用され、現在はMRアンギオなどの画像診断が補完的に行われるが、実臨床では7-10MHzの表在エコーで診断のみならず治療に必要な十分な情報が得られる。前半では“C E A P分類を意識した末梢血管の超音波検査の実際と有用性”のサブタイトルで、皮膚科の日常診療でみる機会の多いC4（特に硬化性脂肪織炎）-C6（潰瘍）の責任血管という考え方とその探し方、表在性血栓性静脈炎に潜むもの、Cを修飾するアムロジピンなどのL型C C B誘発性浮腫の認知度の低さ、血管内治療の現況と最近問題になっている“不適切治療”について紹介したい。また後半では“高周波超音波検査からC E A Pへの挑戦”と題して従来のC E A P分類から外れた微少動静脈瘤の臨床的意義とC C Bの関係について得られた知見から私の考えについて述べたい。

キーワード

C E A P分類、L D S（硬化性脂肪織炎）、
日本静脈学会G L、微少動静脈瘤

日常診療に役だつ皮膚超音波検査

奈良県立医科大学皮膚科

正 畠 千 夏

近年の高周波プローブの普及と解像度の向上に伴い、皮膚科領域でも超音波検査の有用性が認識されるようになりつつあるが、機械操作の煩雑さや画像読影の不慣れにより敬遠されることも多い。しかし、表在の小さな腫瘤を観察する際は、固めのゼリーを多めに使用し腫瘤を圧迫しない、プローブを動かないように保持する、病変を観察する前に正常組織の超音波像を知る、など少しの工夫で検査が簡便になることが多い。また粉瘤や石灰化上皮腫、脂肪腫、異物肉芽腫などの日常よく遭遇する疾患は非常に特異的な所見を認め、超音波検査でほぼ診断が可能である。

本講演では皮膚エコー入門として、検査の工夫や注意点とともに日常よく遭遇する疾患やその鑑別疾患の超音波検査所見を供覧し、診断のポイントを紹介する。これから超音波検査を始める方やあまり得意でない方でも明日からエコーをしてみたい！と思えるようになれば幸いである。

メラノーマよもやま話

関西医科大学総合医療センター皮膚科

清 原 隆 宏

主催 ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社
小野薬品工業株式会社

近年、進行期メラノーマの治療にはパラダイムシフトが起きました。皮膚悪性腫瘍学会では、免疫療法や分子標的療法の講演が目白押しで、しばらくこの状況は続くと予測されます。一昔前は進行期メラノーマに対してはダカルバジンのみで、連戦連敗の虚しい戦いを強いられていました。進行する前に正確に診断することが重要視され、早期メラノーマと母斑の鑑別などが学会での話題になっていたりました。このように、早期診断から免疫療法・分子標的療法へと話題の中心がシフトしていきました。背景にはメラノーマの分子機構の理解の進歩があります。受容体型チロシンキナーゼからのMAPキナーゼ経路における異常がメラノーマの発生に大きく関与することが明らかとなり、この経路の中のBRAF遺伝子変異に対する低分子性分子標的薬が開発されました。一方で、古典的なClark分類は遺伝子異常を踏まえた複雑難解なWHO分類に変遷してきています。また、免疫チェックポイント阻害薬も非常に大きな役割を果たしているのはご存じの通りです。

本ランチョンセミナーでは、メラノーマを取り巻くこれらの話題についてなるべく気楽に聞いていただけることを念頭に置いています。

ダーモスコピー最近の進歩 —AI化の波に向けて—

近畿大学奈良病院皮膚科

山 田 秀 和

以前、“見た目”領域で、容貌の写真を用いた老化の検討をしていたが、AIを用いて年齢推計をすると誤差が5.4年となった。この時は、理由が不明でこの仕事は諦めた。2017年に、AIにより皮膚癌における分類の可能性が報告され、皮膚科医の立ち位置を再度考える必要が出てきた。現在報告されている多くの結果は、DNN（Deep Neural Networks）と呼ばれる、事前に用意した入力データ（画像、その他）を自動で学習する機構で学習させ、精度の高い出力結果を判定・分類できる仕組みを用いている。深層学習（Deep Learning；DL）は、最小二乗法（誤差を最小にする近似計算の一つ）の拡大版とも言われる。特徴量の自動抽出がDLの強みだ。DNNの目的は、最適のパラメーター（特徴）の発見することで、学習を繰り返すことで予測値の出力を最適化するようなパラメーターを探すことになる。臨床現場では、なぜ、悪性と判断したのかがよくわからない状況では（一応病理組織診断を絶対的なものとして）実臨床に不向きだ。これを機械学習のブラックボックスと呼ぶ。現在では、なぜそう判断したかという予測結果を評価できる仕組み×AI（Explainable Artificial Intelligence）が開発されてきた。ダーモスコピーの画像認識では、畳み込みニューラルネットワーク（Convolution Neural Network；CNN）を用いることが多い。画像そのものを入力として与えるが、具体的な特徴量を指定する必要はない。Grad-CAMという手法では、CNNにおいて入力データの画素の位置情報を最終の畳み込み層まで残し、最後の判別出力への位置情報の影響度を得ることで、元画像上にホットスポット（影響の強い部分）を表示させて、どこを認識して判定していたかを示す。今後は、どこが診断に使われたかがわかるようになりそうだ。実際診断に用いるには、治験の必要があることや、皮膚の色、解剖学的部位、時間変化（発達・老化）などの問題を考慮する必要がある。今のところAIはガイダンスツールになりえるが、絶対的な診断ツールにはならない。ただしAIの進歩にはついてゆく必要があろう。本会では、論文紹介を中心に、我々の立ち位置を探りたい。

ダーモスコピーによる診断と活用

大阪大学皮膚科

清 原 英 司

日常診療の中でメラノーマをはじめとする悪性腫瘍の初期診断にダーモスコピーは欠かせない。非侵襲的であり、受診する患者もダーモスコピーの存在を知った上で診察を受けるケースが散見される。よってダーモスコピーを使用した正確な診断を行うことでより患者からの信頼を得ることができる。また、生検前に専門病院に紹介することが可能になるため、組織を利用した専門的検査やその結果に基づいた治療をうけられる時代になるだろう。診断にはある程度のパターンがあり、それを正確に読み取ることによって診断の精度は大幅に向上する。

本講演ではメラノーマを中心とした基本的なダーモスコピーの所見を学び、実症例をもとに演習を行う。明日からの臨床で少しでも役立てて頂ければ幸いである。

清 原 英 司 経歴

平成15年 3 月	愛媛大学医学部卒業
平成15年 4 月	大阪大学皮膚科入局
平成16年 4 月	大阪警察病院、阪大付属病院
平成18年 4 月	大阪大学大学院 遺伝子治療学教室
平成22年 4 月	大阪警察病院、阪大皮膚科 医員 大阪大学未来医療センター プロジェクトマネージャー
平成23年11月	大阪大学大学院卒業
平成24年 1 月	John Wayne Cancer Institute Molecular Oncologyにて リサーチフェロー
平成26年 4 月	大阪大学皮膚科 助教
令和 2 年10月	同 特任講師
令和 3 年 4 月	同 講師

企画主任：坂井 浩志
会 長：磯ノ上正明

大阪皮膚科医会事務局

〒531-0076 大阪市北区大淀中 3 -15- 5

関西共同印刷所営業 1 課内 日下 敦 宛て

T E L 06－6453－3651

専門医の認定について

- 専門医の単位取得には 学会（旧）機構（新）ともに各セッション開始後15分までの入室が必須です
- 機構認定ではさらにセッション終了時までの聴講が必要です。二時間の聴講で2単位付与されます。
現地参加の方は皮膚科学会会員証をご持参ください

* ご自身で必ず、どちらの新・旧どちらの認定専門医であるかの確認を行ってください。